

対ベネズエラ・ボリバル共和国 国別援助方針

2012年12月

1. 援助の意義

我が国とベネズエラとの二国間関係は伝統的に良好であり、同国は石油、天然ガス、鉄鉱石等豊富な天然資源を有することから、近年では資源・エネルギー分野を中心とした関係も発展してきており、経済的に補完関係にある我が国にとって同国の安定的発展は重要である。

ベネズエラは一人当たりの国民総所得（GNI）が高い反面、財政や貿易など経済は過度に石油に依存し、その国際価格の動向に左右されるという脆弱性を有しているほか、持続的な経済発展のためにインフラの更なる整備が今後必要とされている。また、環境分野に対する意識が低く、都市部における廃棄物の不適切な処理による周辺環境や公衆衛生の悪化や、石油資源の大量消費による大気汚染等が問題となっている。自然災害も頻発しており、1999年に集中豪雨による大規模土砂災害、2010年にも豪雨により人命、家屋の他ダム等のインフラ施設が甚大な被害を受けており、防災対策が喫緊の課題である。さらに、低所得者層の貧困問題も依然として深刻であることから、社会的弱者の状況や貧富の格差も考慮する必要がある。

こうした諸問題に対するベネズエラの取組を支援することで、同国の抱える問題の解決を後押しすることに加え、同国との間の信頼関係の醸成を図っていく。

2. 援助の基本方針（大目標）：環境保全及び防災対策の推進

資源開発や都市への人口流入が進むベネズエラが安定した社会を形成していくため、我が国は環境保全を中心とした協力を行っていく。また、防災分野についても我が国が有する知見や経験を活用しつつ支援を行うことで、同国社会の安定した発展につなげていく。

3. 重点分野（中目標）：環境保全・防災

ベネズエラの持続的成長のため、リサイクルや、廃棄物処理の推進、大気汚染の緩和対策など環境セクターへの支援を実施する。

また、多発している水害・土砂災害等の自然災害に対応するため、我が国の知見を活用し、防災分野の行政能力や住民の防災意識の向上等の防災対策支援を実施する。

4. 留意事項

（1）ベネズエラは高中進国に位置づけられ、一人当たりのGNIも11,920ドル（2011年、出典：世界銀行）と高い一方で、低所得者層の割合が高く、貧困削減は引き続き課題であることから、低所得者層に配慮した形での支援や人材育成も併せて実施する。

(2) 同国はすでに一定水準の経済発展を達成しており、将来 ODA 卒業国となることも念頭に、順調な経済発展が維持できる体制を整備することが重要である。

(3) 同国政府内で「シモン・ボリバル国家計画(国家経済社会開発計画)2007-2013」を引き継ぐ新しい国家計画を策定中であり、完成後は必要に応じて本国別援助方針や事業展開計画に所要の調整を加える。

(了)

別紙： 事業展開計画